

交流人口、そして「活動人口」の増加を！



質問者
石内 浩 議員

当町における交流人口増加策は、これまでにない幅広い取り組みが伺えますが、高齢化・人口減少が避けて通れない中、この町に必要なものは、交流人口とともに「活動人口」をいかに増やせるかだと思います。

そこで、次の点についてお伺いします。

(1) 新まちづくりアクションプログラムは平成30年度、まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略は平成31年度が最終目標年度となっており、現在の評価をお示しく下さい。

(2) 「活動人口」の増加は、地域づくりや住民参加の実質的拡大が不可欠

ですが、住民参加の新しい取り組みについてお伺いします。

A

「活動人口」増加で魅力ある町づくり

回答（町長）

(1) 当町の交流人口の目標値設定は、予測観光客数を平成30年に86万人としている。平成29年の実績は約73万人であった。交流人口増加策としては、特に寄地区の魅力を生かした農山村に泊まる事業や東京オリンピックをチャンスにするなどの

施策に取り組んでいきたい。

(2) 「活動人口」は、地域づくりに積極的に参加する人の数と理解している。以前から地域活動に対して、財政支援を続けているが、地域の中で、どこに住んでいるのか、

子どもがいてもこの子か分からないといったことを耳にする。自治会との協働で、これらの方の活躍できる場や子ども達との交流できる場づくりの推進を図り、町の活性化につなげ、魅力ある町にしていきたい。

有害獣防止柵設置材料費補助金の上限の引き上げを



質問者
飯田 一 議員

今年も鳥獣による農作物の被害に悩まされ、収穫の秋を迎えさらに大きな被害を被ることが予想されます。

そこで質問をいたします。

(1) 農作物の被害は増え続け、農家の生産意欲は減退し、耕作放棄地も増加しています。町内での状況はいかがでしょうか。

(2) 空き家になった住宅

が放置され、雑木が生い茂り、ハチや動物のすみかとなり、景観の悪化、防犯、防災の面からも問題があり、管理の不十分な空き家の所有者に対する適切な措置はとられていますか。

(3) 現在、町の有害獣防止柵設置材料費補助金は10a以上、1回の申請で20万円以下となっています。大きく囲う場合、補

A

内容を検証し今後の方向性を示す

回答（町長）

助金の範囲内では無理になってしまいます。上限の引き上げはできないものでしょうか。

営農意欲の減退も耕作放棄・離農してしまう大きな要因の一つになっている。

(2) 環境への悪影響や危険の切迫性など総合的に判断し、安全・安心なまちづくりを進めていくため、先行している自治体の例を参考に具体の検討を進めていく。

(1) 耕作放棄地の現状は2015年調査で43ha、2010年に比べ5ha増加し、年々増加傾向にあり、要因としては高齢化と世代交代による後継者不足、販売価格の低迷、さらに有害獣被害による

(3) 大きく囲う場合、隣接する農地の方との協力条件によってはJAの補助制度も併せて活用することも可能である。要綱の内容については、利用実績や効果などの検証と合わせ荒廃地増加の対策の一助となるよう、今後の方向性を示していきたい。



水田の周りを防止柵で囲み有害獣の侵入を防いでいる